

# 1. 保護者の育児情報環境

## 1. 保護者を困む多様な育児情報

情報化社会で子育て生活を送る保護者達は、家族や友人、専門家や各種メディアなど、さまざまな育児情報源に取り囲まれている。

日本の親を対象にした育児情報意識、情報収集行動や情報ネットワークづくりの時系列調査の結果では、子どもの年齢、保護者の属性や関心事によって情報源は異なることが明らかになっている。

幼児の親の信頼情報源は、「配偶者・近所の友人・実家の母・園の先生」が、ほぼ毎回上位4位を占めている（p116参照）。

また、0歳・1歳児の親にとっては、育児書や育児雑誌も重要な情報源である。

さらに、この数年、パソコンや携帯電話でのインターネットによる情報収集やホームページの掲示板を通してのコミュニティづくりが急速に伸びてきている傾向もあり、子育て時期の情報環境も変わりつつある。

## 2. 保護者が活用する育児情報源（図6-1）

本調査結果では、保護者が活用する情報源の1位として、「配偶者」が69.8%であげられた。ついで、「園の先生」62.4%、「同じ出身国の友人」が52.8%で3位、「テレビ、ラジオ」と「近所ではない友人」が同じく4位で46.4%、「近所の日本人の友人」が44.8%で6位という順であった。

「自分の夫や妻」である「配偶者」や子どもを預けている「園の先生」を、身近な相談相手としながら、「同じ出身国の友人」、職場や学生時代、日本語学校、同じ宗教やサークルの「近所ではない友人」や最新情報が得られる「テレビ、ラジオ」も活用している様子が表れていた。

在日2世・3世も含む20年以上の滞在者が10.9%、日本語がよくできる人が38.3%いることもあり、「近所の日本人の友人」を44.8%が活用している現状であった。

## 3. 国籍・地域別の活用情報源（表6-1）

活用情報源を国籍・地域別に分類すると、いくつかの特色がみられた。

回答者人数に開きがあるので、あくまでも、ひとつの傾向としてしか見なせないが、活用情報源としての「配偶者」を、「アメリカ」人は全員があげていた。つぎに、「園の先生」は、「朝鮮」が87.2%でもっとも多く、ついで、「台湾」、「日本」、「中国」の順であった。

「テレビ、ラジオ」や「新聞」メディア活用に関しては、日本の放送や活字媒体はもとより、ここでは、在日の家族に向けた韓国語や中国語の新聞、電波メディアも定着している現状も合わせて考える必要がある。

同様に、「台湾」が30.6%、「アメリカ」が27.6%活用している「インターネット」も日本語のみならず、中国語や英語などのサイトから情報を得ている可能性も高いと思われる。

## 4. 信頼する育児情報源の自由記述から

**配偶者**：「両親や兄弟と離れて住んでいるので、子どもについては主人と一番多く話し合い、お互いが話し相手になっている」

（保4男・母39歳・韓国・3ヵ月）

**実家の親**：「私は両親が最良のモデルであるべきだと思う」（保3女・母29歳・フィリピン・8年）

「ペルーにいても母とは、ときどき手紙と電話で連絡をとっています」（保3男・母33歳・ペルー・11年）

**園の先生**：「保育園の先生が、子どもの一日の様子を書いてくれたノートを読んで情報を得ます。一番信頼できるし、保育園の先生に感謝しています」（保2男・父39歳・韓国・4年）

**育児書**：「幼児教育や育児についての専門書。ブラジル人が書いた本は、同じ文化なので、安心して信頼できる」（保3男・母35歳・ブラジル・9年）

図6-1 保護者が活用する育児情報源  
(とても+やや活用している)

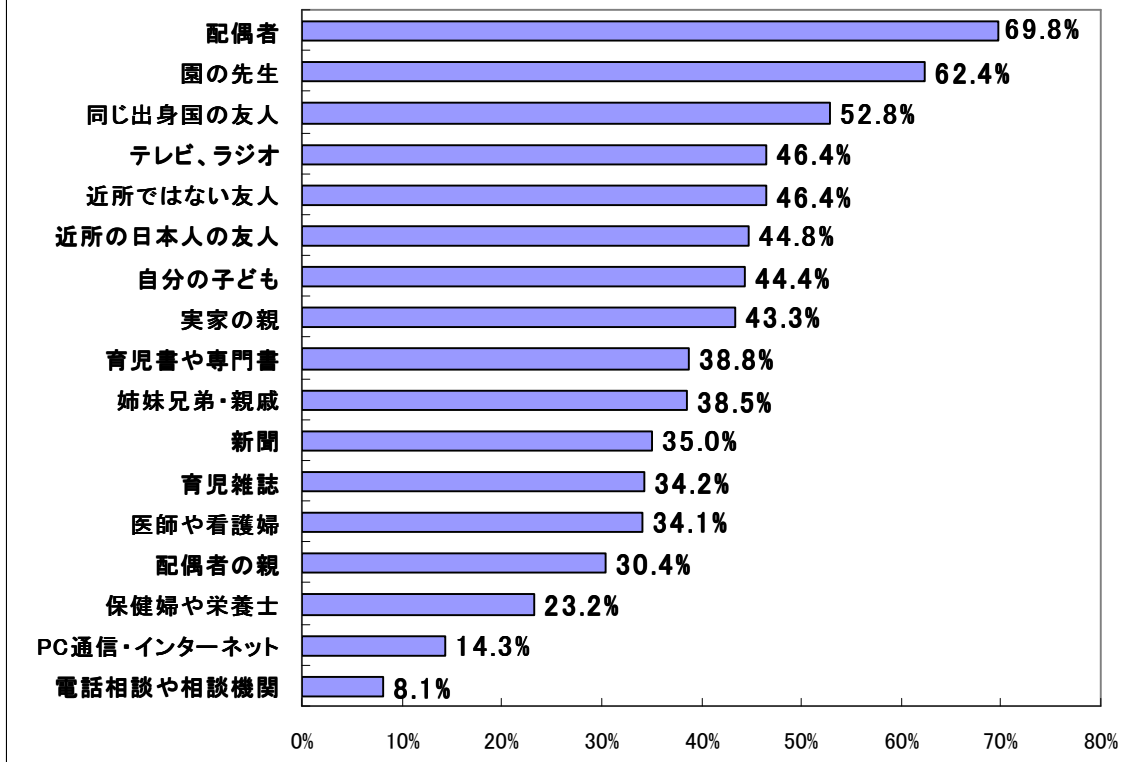


表6-1 国籍・地域別の保護者の活用情報源 (上位4位)

国籍・地域別順位		第1位	第2位	第3位	第4位
活用情報源 全体での順位					
1	配偶者 69.8%	アメリカ 100.0% (29)	ペルー 93.1% (27)	朝鮮 84.6% (33)	タイ 83.0% (39)
2	園の先生 62.4%	朝鮮 95.0% (38)	台湾 82.5% (52)	日本 81.2% (220)	中国 79.4% (409)
3	同じ出身地の友だち 52.8%	朝鮮 87.2% (34)	中国 72.6% (379)	台湾 65.1% (41)	韓国 64.5% (198)
5	テレビ、ラジオ 46.4%	台湾 73.0% (46)	中国 68.4% (353)	朝鮮 64.1% (25)	日本 56.4% (155)
6	近所の友人 44.8%	朝鮮 66.7% (26)	日本 63.2% (175)	台湾 60.9% (39)	韓国 59.2% (180)
8	実家の親 43.3%	ペルー 73.1% (19)	朝鮮 69.2% (27)	日本 60.4% (154)	ベトナム 60.0% (18)
11	新聞 35.0%	中国 57.1% (133)	朝鮮 53.8% (21)	台湾 53.2% (33)	日本 49.4% (133)
16	PC通信やインターネット 14.3%	台湾 30.6% (19)	アメリカ 27.6% (8)	韓国 18.5% (55)	朝鮮 17.9% (7)

(注) 国籍・地域の詳細についてはP2を参照

%(人数)

## 2. 保護者の信頼情報源の判断理由

### 1. 信頼情報源の判断理由 (表 6-2)

保護者がまわりの家族や友人など身近な相談相手から育児書や新聞などのさまざまな「しつけ・教育情報源」を、どの程度活用しているのかをたずねた。

さらに、それらの中でもっとも信頼する情報源は誰か、または、どれかを一つだけ選定してもらった。つぎに、しつけや教育の情報源として、「信頼している判断理由」についても、個々にどのくらい重要視しているのかを「とても重要である」から「ぜんぜん重要でない」までの4段階評定で聞いた。

もっとも信頼する情報源と判断理由の中でも、「とても重要である」と選んだ人の内容だけをクロス集計した結果が表 6-2 である。

この表は保護者が必要な情報を明確な意図をもって選定していることを示している。

#### 1) 配偶者

配偶者を選んだ理由は、「自分の身内であること」35.4%が最も多く、2位は、「夫（または、妻）が育ったように子どもを育てたい」、3位には「わが家らしい子育てをしたい」で、「身近で相談しやすいこと」、「個人的なこと（プライバシー）が守られる」と続いていた。夫や妻など配偶者を情報源として信頼する理由としては、「わが家らしい子育て、個人的なことが守られる」などの『独自性』や「自分の身内、夫（妻）のように子どもを育てたい」などの『ファミリー意識』が重要視されていた。

#### 2) 実家の親

実家の親を選んだ理由は、「自分が育ったように子どもを育てたい」が22.2%で1位となり、ついで、「自分の身内であること」、「経験や体験内容が豊富であること」、「個人的なことが守られること」、「わが家らしい子育てをしたい」の順であった。

実家の親も配偶者と同じように、『ファミリー意識』と『独自性』が中心であった。

しかし、親としての「経験や体験内容が豊富」を信頼理由としてあげた人数は、他の情報源と比べてもっとも多かった。

#### 3) 園の先生

園の先生の場合は、「専門的な知識があること」20.2%がもっとも多く、つぎは、「役に立つ具体的なアドバイス」、「経験や体験内容が豊富」で、「子どものことをよく知っている」、「身近で相談しやすいこと」であった。

園の先生の場合には、わが子を含む「子どものことをよく知っている」など実用性の高い専門情報源としての『親近実用性』が求められていることが表れていた。

#### 4) 育児書・教育書

育児や教育などの専門書は、第1位に、「最新情報が入ること」18.4%で、つぎに、「専門的な知識があること」、「正確な情報が手に入ること」、「役に立つ具体的なアドバイスが得られる」、「経験や体験内容が豊富」の順であった。育児書や教育書は、「最新情報、正確な情報が入りやすい」など『専門信頼性』と『親近実用性』の「経験内容が豊富、役に立つアドバイス」の両方の観点から評価されていた。

### 2. 年齢別のもっとも信頼する情報源 (図 6-2)

もっとも信頼する情報源の上位4位を、子どもの年齢別にみたのが図 6-2 である。

「育児書・教育書」は、とくに、0歳児の親が頼りにしている。4歳児の親の滞在年数は0～3年未満が他の年齢の親より有意に多く、子どもの日本語能力も有意に低いためもあつてか、「配偶者」への信頼関係が群を抜いて上昇していた。

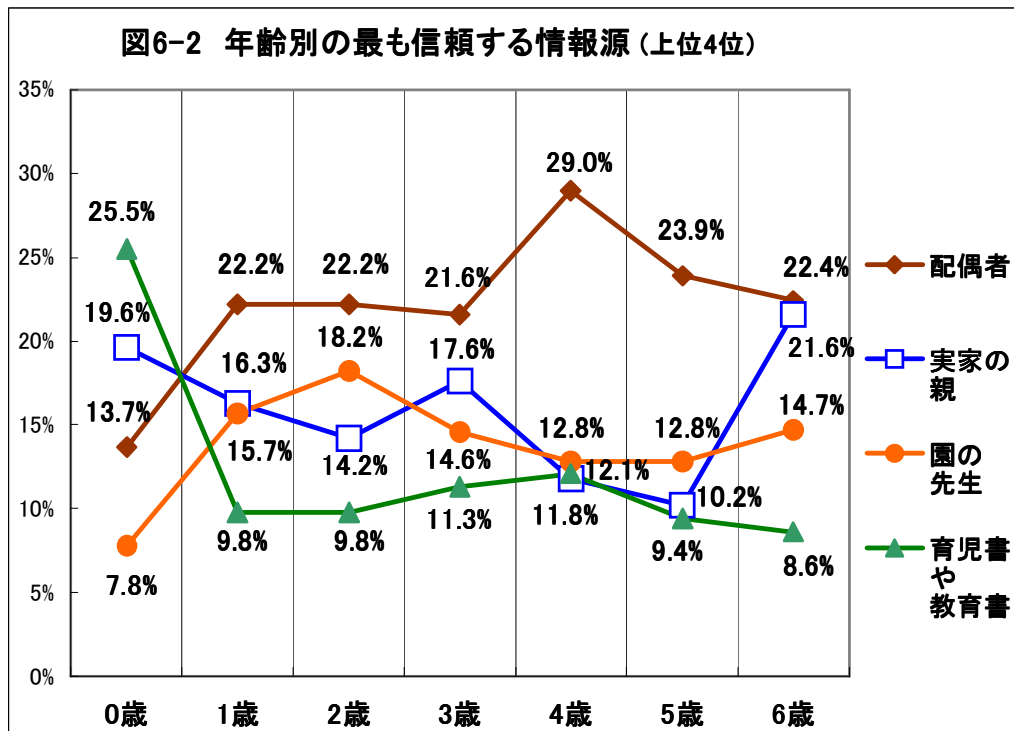
「園の先生」は2歳児の言語発達の時期には、母語と日本語の問題などがあるためか上昇していた。「実家の親」は、子どもの成長の節目には上昇しており、どこに住んでいても、心の拠り所になっていることが顕著であった。

表6-2 最も信頼する情報源と判断理由(とても重要である)

順位	配偶者	%(度数)	順位	実家の親	%(度数)
1	自分の身内であること	35.4%(152)	1	自分が育ったように子を育てたい	22.2%( 51)
2	夫(妻)が育ったように子を育てたい	30.6%( 49)	2	自分の身内であること	20.5%( 88)
3	わが家らしい子育てをしたい	29.5%(134)	3	経験や体験内容が豊富である	17.8%(141)
4	身近で相談しやすいこと	27.7%(210)	4	個人的なことが守られる	17.7%( 74)
5	個人的なことが守られる	24.2%(101)	5	わが家らしい子育てをしたい	16.7%( 76)

順位	園の先生	%(度数)	順位	育児書・教育書	%(度数)
1	専門的な知識があること	20.2%(116)	1	最新情報が手に入ること	18.4%( 70)
2	役に立つ具体的なアドバイス	16.8%(120)	2	専門的な知識があること	17.7%(102)
3	経験や体験内容が豊富である	16.7%(132)	3	正確な情報が手に入ること	15.1%( 87)
4	子どものことをよく知っている	16.0%(120)	4	役に立つ具体的なアドバイス	13.2%( 94)
5	身近で相談しやすいこと	14.5%(110)	5	経験や体験内容が豊富である	12.7%(100)



### 3. 母親の情報ネットワーク

#### 1. 滞在年数と活用情報源 (図6-3)

本調査の回答者である保護者のうち、83.2%が母親であった。ここでは、とくに母親の活用情報源に焦点をあてて、最初に、滞在年数による変化を図6-3に示した。

滞在年数が長くなるにつれて下降するのは、「配偶者」と「同じ出身国の友人」である。反対に、長く住むにつれて上昇するのは、「近所の日本人の友人」と「新聞」である。日本に慣れないうちは夫や同郷人が頼りの綱であるが、しだいに、近所の友人との交流も深めて、新聞も読む余裕が出てくるという様子が表れていた。

インターネットは、3年未満の滞在者に最も活用されている状況を示していた。

#### 2. 就業状況と活用情報源 (図6-4)

母親の就業状況別に活用情報源の平均値を比較した結果が図6-4である。

「配偶者(夫)」を最も活用しているのは専業主婦で、とくに、パートタイマーより有意

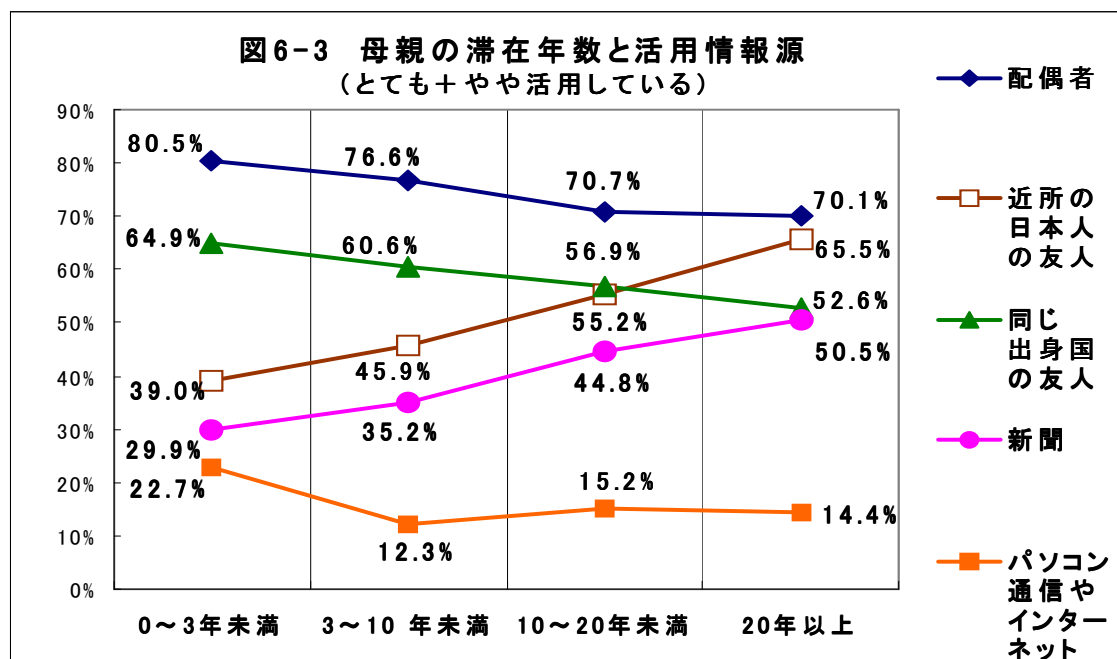
に多かった。職場の人も含む「近所ではない友人」は、常勤者が専業主婦やパートタイマーに比べて、極めて多く活用していた。「新聞」と「インターネット」も常勤者は、パートタイマーに比べて有意に多く活用しており、活用順位は、①常勤、②専業主婦、③パートの順になっていた。

「園の先生」は常勤者とパートタイマーが専業主婦に比べて有意に多く活用していた。

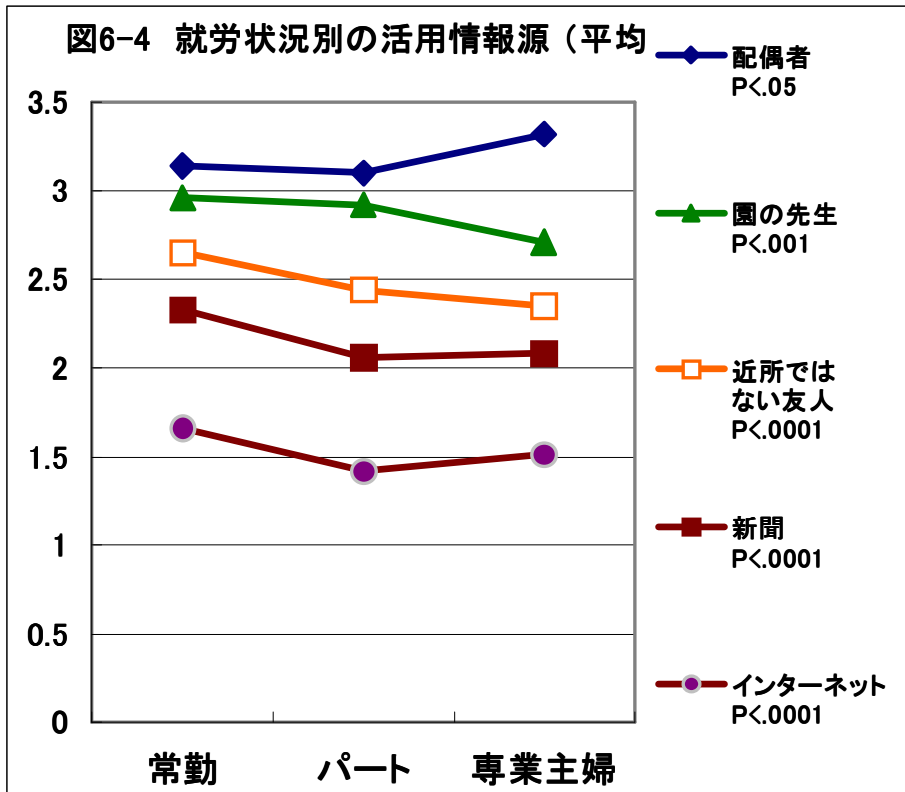
常勤者や専業主婦に比べてパートタイマーが、まわりの人達や情報メディアを活用していない(できない)状況であった。

#### 3. 子育てつきあい積極傾向と情報ネットワーク (図6-5)

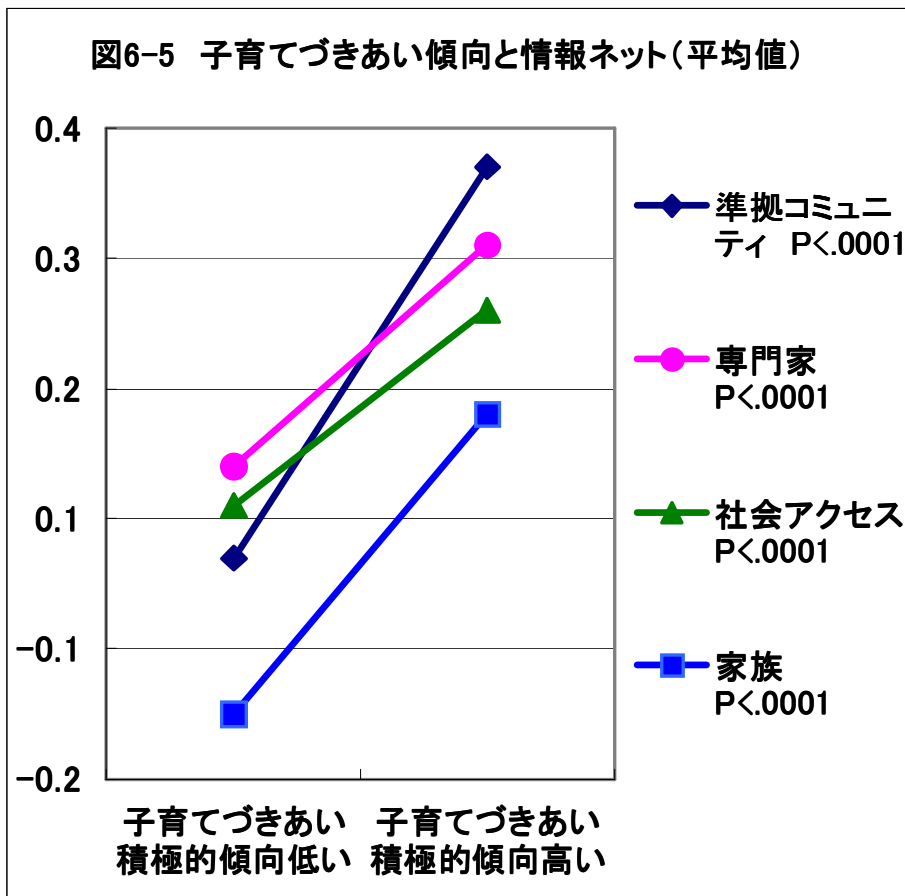
育児情報源はいくつかの同種のネットワーク・グループに分類されるが、図6-5のように、子育てつきあい積極的傾向が高い母親は、低い母親に比べて、『準拠コミュニティ』、『専門家』、『社会アクセス』、『家族』のいずれも有意に多く活用していた。



N=1452

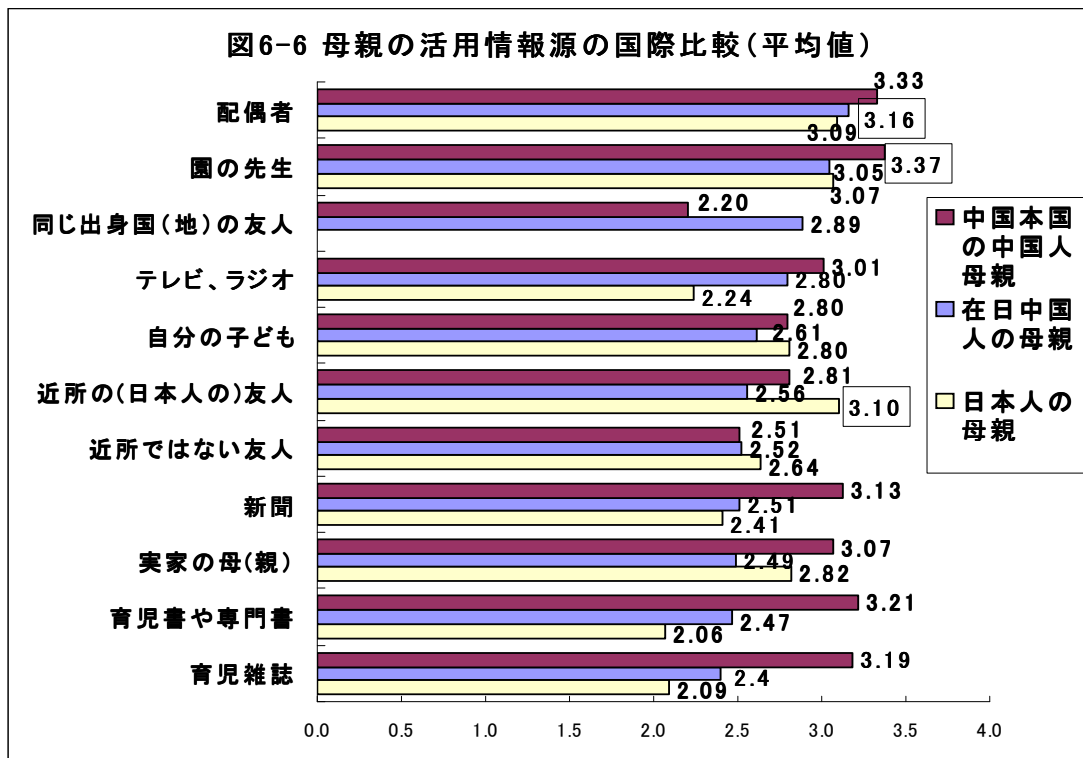


N=1357



N=645

## Column : 母親の活用情報源の国際比較



中国本国に住む中国人と日本に住む中国人、そして、日本人の母親の活用する育児情報源を比較したのが、図6-6である。グラフの数値は、「とても活用している」4点から、「ぜんぜん活用していない(できない)」1点までの4段階評定での平均値である。

数値を四角で囲んであるのは、それぞれの1位である。

中国本土の母親は、①園の先生、②配偶者(夫)、③育児書、④育児雑誌、⑤新聞の順で、つぎに、在日中国人の母親は、①配偶者、②園の先生、③同じ出身国の友人、④テレビラジオ、⑤自分の子どもであった。また、日本人の母親は、①近所の友人、②配偶者、③園の先生、④実家の母、⑤自分の子どもが上位5位であった。

中国の調査対象地域であった都市部では、一人っ子への教育期待が高まる中で、書籍や電波など情報メディアが急速に発達している社会状況である。そのためか、テレビの育児や教育番組にも親の関心が集まっている。活用情報源も配偶者を除いては、「園の先生、育児書、新聞」などの専門情報志向が反映していた(p80参照)。

一方、日本に住む中国人の母親は、「配偶者や同じ出身国の友人」を頼りにして、結びつきが強くなる傾向が表れていた。また、日本人の母親のしつけ・教育情報は、日ごろ忙しい夫よりも同じ年ごろの子どもがいる友人達との情報交換が中心になる。必要に応じて、「配偶者、園の先生、実家の母」にも助言を求める現状が表れていた。日本の母親への調査では、「自分の子ども」を高活用情報源にしている母親は、育児不安が有意に低い結果が出ていた。在日中国人と日本の母親は、ともに、育児の対象である「自分の子ども」を5位の情報源にしている視点が共通していた。